



第3回高齢者の人権学習会盛会に終わる！



トーチによる学習会もこの1年で3回目となり、2月20日(月)「ほっと平針菜の花ホール」で36名の参加を得て開催されました。

今回は平日開催であったためか事業者の参加が少なく、その一方地域住民13名の参加があり地域に根差した学習会になりました。

講師は南部法律事務所平針事務所の高森裕司弁護士で「身寄りのいない人の準備—遺言・死後事務委任を中心として」というテーマで講演いただきました。内容は①身寄りがないことの問題②事例紹介③死後の対応—誰に頼るべきか④生前準備しておくこと—遺産・遺言⑤自己決定の重要性などの流れで講演されました。

参加者のアンケートでは「丁寧な説明でポイントがよく分かった」「将来の不安が少し和らいだ」「身寄りのいない人の亡き後の準備の必要性が理解できた」「必要な経費についても答えて頂き参考になった」「遺産の遺留分について理解できた」などの感想が寄せられました。

今後の学習会について希望するテーマについては「判断能力の乏しい人の契約」等が、また課題としては「より多くの事業者が参加できる日程・場所での学習会を」との意見がありました。今回の意見・要望を受け、より親しみやすく参加しやすい学習会をこの夏に向け企画していきたいと考えています。楽しみにしてください。

～参加者の声～

高森弁護士の講演を聞いて私の妹のことを考える良い内容でした。妹は結婚せずに親が残した自宅と幾らかの預金で生活をしています。妹の他に歳上の男兄弟3人(私も含め)が居ます。いずれ男の兄弟が先に死んでいくと妹が一人になります。そして認知症になる可能性もあります。そうなる前に準備(遺言、死後事務委任)を今から兄弟と話し合っておかないといけないと思いました。

K. S (天白区在住)

～母の介護～



母は、デイサービスに週4日通っています。ケアマネージャーから、母について「表情も穏やかで、デイサービスも問題ないわよ。」と言われます。デイサービスセンターでの母は、母の隣に座る初めての利用者に「ここわね、皆さん親切だから」と、優しく声をかけるそうです。これを妹に話したら、子どもの時そうやって優しくしてもらいたかったと言いました。「お嬢さんの接し方が、いいんだと思うわ」とも言われます。

私は、母に接する時、あまり急かすことはせず時間に余裕を持って接するようにしています。母の気持ちを大切に寄り添うようにしていますが、時には腹の立つこともあり、声を荒げることもあります。ふと、母を不安にさせたのではと心配になり妹に話すと「大丈夫、昔からお姉ちゃんは、怒りっぽいことをお母さんは知ってるから」との返事でほっとしました。このまま、トーチをはじめ皆さんの協力を受けながら穏やかに余生を過ごしてほしいと切に願っています。

高橋美也子（利用会員様のご家族）

～闘病の記Ⅱ～

前号に続き闘病記パートⅡになります。サッカーワールドカップで日本チームが活躍している最中、急性腸炎で8日間の入院生活を余儀なくされました。入院できた先の病院は地域包括ケア病棟、コロナ対応のため個室に閉じこめられ周りの患者さんたちの様子がわかりませんが、ほとんどが高齢者、中には認知症状が相当進んだ方も見えるようです。深夜、ナースが駆け回る足音が幾度となく響きます。絶食と点滴が続き、やっと5日目の夕方に全粥が出ました。体重は4, 5 kg減少しました。「なごや八〇フレイルテスト」の8番目の質問項目に、この6か月の体重の減少（2～3 kg）はないという項目があります。退院後も体重がなかなか戻らず、まさにフレイル、要介護状態の一步手前に自分もなってしまいました。

退院の前日、入浴オッケーが出て介護入浴。看護助手の方が全身を洗身してくれるのです。あとは器械を使って入浴。介助してくれた看護助手の方は23歳のベトナム人女性、異性の入浴介助でもなんともないですよと頼みもしない髭剃りもしてくれました。こちらとしては、ジジイでも何となく気恥ずかしいけれどカムオン（ありがたいの意味）です。

以前、ベトナムのホーチミン市を観光した際に覚えていたシンチャオ（こんにちはこの意味）とカムオンで看護助手の方とのコミュニケーションがとれました。その後、彼女が同僚のフィリピン人女性を病室に連れてきてよもやま話をしていきました。フィリピン人女性は日本人男性の配偶者で技能実習生ではないですが、この病棟に2～3人程度外国人が働いているそうです。

外国人技能実習生は、全国に34万人余（2022年10月末現在 厚労省「外国人雇用状況」）、中でもベトナム人がトップです。介護や看護の現場でも、外国人労働者に依存している厳然たる事実を今回の入院で実体験しました。このことを悲観的に受け止めるのではなく、外国人労働者の問題のみならず、誰もが多様性を認めお互いに尊重しあえる共生社会を築きあげていくことが必要と実感した入院生活でもありました。

K. I（理事）

<お知らせ>

2023年度会費納入の時期となりました。よろしく願いいたします。